



編集・発行
 児玉源太郎顕彰会
 〒745-0874
 山口県周南市公園区5854-41
 周南文化協会 内
 TEL. 0834-22-8190

印刷 (株) 精文社
 山口県周南市若宮町1-55
 TEL. 0834-21-1611

令和の時代 新体制へ 児玉源太郎顕彰会総会

児玉源太郎顕彰会は4年目に入りました。令和の時代の幕開けとともに元年度総会を5月25日、周南市文化会館3階展示室で開催しました。

発足以来、会長を務めていた元徳山市長の小川亮さんが今年1月16日逝去、空席となっていた会長に理事で山下内科医院院長の山下武右さんを満場一致で選出、新体制が動き始めました。山下会長は「源太郎の一生を学ぶことは、おのずと我が国の近代史を学ぶことになります。浅学非才の身ながら、顕彰活動を通じて社会に貢献していきたい」と挨拶されました。小川亮さんの遺族から一千万円の寄付申し出があり、「小川亮基金として大切に使用したい」ことも公表



就任挨拶する山下武右さん

されました。総会には60人が出席。役員選任に続いて昨年度の事業報告と収支決算を説明、原案通り承認されました。会報「藤園」3号とニュー

スレター「本丁通信」4号を発行、児玉源太郎の命日7月24日の「藤園忌」には児玉神社と菩提寺の興元寺へお参りし、「藤園忌」にちなんだ茶会や俳句募集を行いました。会員は寄付金4人、団体会員21件、賛助会員32件・8人、個人会員313人の計53件・325人。総数で378件・人。

昨年度は明治150年の節目にあたり、児玉源太郎顕彰会が中心となって「明治維新百五十年回想と顕彰」周南実行委員会を発足、奉祝祭や周防部の史跡探訪バスツアー、「明治維新百五十年の宴」源太郎に思いを馳せて」など一年を通じてさまざまな事業を展開しました。

新年度の事業計画では、会報「藤園」4号とニュースレター「本丁通信」5号と6号の発行、7月21日に第3回「藤園忌」の茶会と邦楽演奏を周南市文化会館で、命日の24日は児玉神社で命日祭、そのあと興元寺で墓前供養。7月から9月まで藤園忌にちなんだ俳句を募集。新たな事業として児玉の生涯とその時代を描くDVD制作と児玉ゆかりの地を訪ねる第2回台湾の旅などを説明、原案通り承認されました。

総会のあとは、山口学芸大学教授、梅光学院大学客員教授の福屋利信さんが「人生を忘れてしまいたい、このアジアの片隅で」と題して台湾の近代化に貢献した山口県出身者や最近の大学間の日台交流、台湾の音楽、映画文化などを紹介されました。



講演する福屋利信さん

新任の役員は次の通り。(敬称略)
 ▽幹事Ⅱ岡倫明(徳山商工会議所青友会会長) 清木伸浩(周南青年会議所理事長)

※山下武右新会長の挨拶全文、平成30年度収支決算と令和元年度収支予算、第3回「藤園忌」命日祭と墓前供養、茶会と邦楽演奏、俳句の入賞作品と表彰式、記念講演については別頁で詳細を掲載していますのでご覧ください。

総会で就任挨拶

会長 山下武右

我が国にとって大変意義のある令和元年の幕開けとともに、児玉源太郎顕彰会は創立3周年を迎えることになりました。会員の皆様方のご協力に心からお礼申し上げます。

この3年間、児玉源太郎顕彰会に対し、ご不自由なお身体にも関わらず、常に先頭に立ってご指導いただいた小川亮会長が去る1月16日、95歳の天寿を全うされました。余人に代えがたき名会長であり、痛恨の極みであります。

明治39年に児玉源太郎が逝去し、大正11年その遺徳を偲び、児玉神社が創建されましたが、児玉源太郎顕彰会はどのような事情があったのか創設されていません。神社創建の発起人は藤田蕃穂（当時徳山町長）他52名となっていて氏名は不詳です。当時より児玉神社は遠石八幡宮（当時黒神五百太郎宮司）のお世話になっており、今日に至っています。

児玉源太郎顕彰会の創立の動きは、明治100年や日露戦争10

0年等の節目にもありましたが、なかなか実現せず、小川会長も随分気になっておられました。多くの有志の方々がこれまで児玉源太郎の偉業を称え、石碑や銅像を児玉神社に奉納され、また眼科の長田昇先生は大著「児玉源太郎」を上梓されて興元寺の墓地の整備をされていきました。

平成20年徳機株式会社（岡田幹矢会長）より児玉源太郎生誕の地が周南市に寄贈されました。早速木村健一郎市長にお願いし、市民の憩いの場所「児玉源太郎生誕の地」として整備してもらいました。また平成27年に周南市文化会館の西崎博史館長が周南文化協会会長に就任しました。平成30年の明治150年は目前に迫っています。

まず小川亮・元徳山市長、遠石八幡宮の黒神公直名誉宮司と私で下準備をし、山口放送の赤尾嘉文会長と周南文化協会の西崎博史会長の5人で発起人会を起ち上げ、西崎会長に事務局長への就任と周南文化協会の協力をお願いしました。この後の児玉源太郎顕彰会の

活動は皆様のご承知の通りです。

児玉源太郎といえば軍人として台湾総督、日露戦争の旅順攻略で高く評価されていますが、児玉源太郎の本質はもっと奥深く、軍人でありながら内務大臣、文部大臣を歴任し、政治、経済、司法、教育、医療、環境、地方行政等多岐にわたり、また日露戦争の早期終息と戦後処理に尽力するなど国家に対する貢献は計り知れないものがあります。

一方、ふるさと徳山においては海軍燃料廠の誘致に貢献し、当時本格的な図書館「児玉文庫」を寄贈し、青少年に徳育の必要性を熱く語っています。黒船来航の1年前に誕生した源太郎の幼少期は、幕末の騒乱に巻き込まれ、絶望と屈辱の「時期を過ごしますが、持ち前の際立った先見性、協調性、戦略性等の豊かな才能を遺憾なく発揮し、国内のみならず海外からも高く評価されることとなりました。源太郎の一生を学ぶこと自ずと我が国の近代史を学ぶことに通じます。

藤が好みの源太郎が使った号「藤園」にちなみ、一昨年から命日を「藤園忌」として俳句募集を始めました。全国から多数の応募

があり、また文化協会の茶道連盟、邦楽連盟の協力を得て始めたお茶会も市民参加型のにぎやかな催しになりました。いずれ「藤園忌」は夏の季語として認知されることとなるでしょう。

児玉源太郎顕彰会の情報発信により、全国各地に児玉源太郎を深く研究する多くの学者や評論家、熱心な愛好家の存在も分かりました。さらなる活動により、周南市が「石油コンビナート」とともに「児玉源太郎生誕の地」として知られるようになることを期待しています。

4月の役員会で黒神公直副会長をはじめ、役員の方々から小川会長の後任に推挙されました。もとより浅学非才、重責に耐える能力も体力もありませんが、黒神副会長から「小川会長も頑張られたではないか」と叱咤激励され、お引き受けすることとなりました。誠心誠意、皆様のご期待に沿えるよう頑張りますのでご指導、ご協力のほど切にお願い申し上げます。最後になりましたが、小川会長のお気持ちとしてご遺族より一千万円のご寄付をいただきました。ありがとうございます。「小川亮基金」として児玉神社の改修や児玉家の庵「三五庵」の復元等に大切に使用させていただきますと思います。

令和元年度 収支予算書

【収入の部】

(単位:円)

科 目	予算額	前年度 決算額	備 考
繰 越 金	4,488,460	6,396,715	
会 費	1,000,000	936,000	個人会費 ----- 団体会費 ----- 賛助会費
寄 付 金	2,500,000	1,200,000	寄付金
雑 収 入	100,000	175,217	会報「藤園」販売 ----- 利息
合 計	8,088,460	8,707,932	

【支出の部】

(単位:円)

科 目	予算額	前年度 決算額	備 考
会 議 費	50,000	20,791	会場費等
通 信 費	300,000	375,341	切手・葉書 郵送代
消 耗 品 費	100,000	157,221	印刷用紙・インク
印刷製本費	1,000,000	1,002,780	「藤園」「本丁通信」、封筒
備品購入費	50,000	77,112	
渉 外 費	50,000	51,600	慶弔費、旅費等
宣伝広告費	100,000	7,560	ホームページ
事 業 費	4,000,000	1,987,276	「藤園忌」催事、講演会、DVD制作
事務局費	500,000	509,879	借上費、賃金、事務用品
手 数 料	40,000	29,912	郵便振替手数料
予 備 費	1,898,460	0	
合 計	8,088,460	4,219,472	

児玉源太郎DVD制作「児玉源太郎 未来を築く」

徳山藩（現在の周南市）の士族の家に生まれ、西南戦争、台湾総督、日露戦争、明治政府にあって、政治家として軍人として国家の運命を背負って生きてきた児玉源太郎（1852～1906年）。その生涯を、今を生きる若者たちの学びの場として伝えます。

全3巻。第1巻「徳山藩に生まれる」、第2巻「戦場の青春」、第3巻「世界の中の日本」。令和元年度と2年度の2か年をかけて制作します。企画・児玉源太郎顕彰会、制作・山口放送、特別協賛・トヨタカローラ山口。詳細は来年春にお知らせします。

〈お問合せ〉児玉源太郎顕彰会 ☎0834-22-8190

平成30年度 収支決算書

【収入の部】

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	備 考
繰 越 金	6,396,715	6,396,715	
会 費	1,700,000	936,000	個人会費 626,000 ----- 団体会費 70,000 ----- 賛助会費 240,000
寄 付 金	2,000,000	1,200,000	寄付金
雑 収 入	100,000	175,217	会報「藤園」販売 8,000 ----- 茶券 167,200 ----- 利息 17
合 計	10,196,715	8,707,932	

【支出の部】

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	備 考
会 議 費	50,000	20,791	会場費等
通 信 費	250,000	375,341	切手・葉書 郵送代
消 耗 品 費	100,000	157,221	印刷用紙・インク・事務用品
印刷製本費	1,000,000	1,002,780	「藤園」「本丁通信」、封筒、 会員募集チラシ
備品購入費	50,000	77,112	手提げ金庫、保管庫
渉 外 費	50,000	51,600	慶弔費、旅費等
宣伝広告費	300,000	7,560	ホームページ
事 業 費	4,000,000	1,987,276	「藤園忌」茶会 169,080 ----- 「藤園忌」命日祭・供養 75,508 ----- 藤園忌俳句・記念講演会 293,340 ----- 「明治維新百五十年回想と顕彰」 実行委員会（助成） 537,208 ----- 俳句掲示板 491,400 ----- 総会・講演会等 420,740
事務局費	350,000	509,879	借上費、賃金
手 数 料	40,000	29,912	郵便振替手数料
予 備 費	4,006,715	0	
合 計	10,196,715	4,219,472	

(収入) 8,707,932 - (支出) 4,219,472 = (残高) 4,488,460

「藤園忌」3年目へ 児玉神社と興元寺へ

児玉源太郎顕彰会は「藤園忌」の7月24日、児玉神社（黒神直大宮司）で命日祭、菩提寺の興元寺（金子清学住職）で墓前供養を行いました。命日のこの日を「藤園忌」と定めて3年目です。顕彰会の役員、会員ら20人が参列し、児玉源太郎の遺徳をしのびました。

児玉神社では拝殿で黒神宮司の祝詞が奏上され、山下武右会長らが玉串を捧げました。興元寺の児玉家墓地では金子住職が読経をあげて参列者が焼香、続いて児玉源太郎の遺髪塔の前に石角繁隆さん、木本清美さん、山上哲也さん、柴田具子さん、森谷京子さんの五人が児玉の漢詩を献吟しました。

山下会長は「児玉源太郎は軍人としてだけでなく政治家としても立派な功績を残されたことを後世に語り継ぎたい」と話しました。

児玉源太郎の命日については23日と24日の二つの説がありますが、児玉源太郎顕彰会では児玉家が24日を命日としていること、墓石に

24日薨去と彫られていること、菩提寺が24日で供養を執り行っていること、などから24日を「藤園忌」と決めました。



児玉家墓地での墓前供養

「藤園忌」茶会と邦楽演奏 250人が楽しむ

児玉源太郎顕彰会は、命日前にした7月21日に「第3回藤園忌茶会」を催しました。

周南文化協会の茶道連盟（村田園会長）と邦楽連盟（澄田悦子会長）の協力を得て箏と尺八の演奏を聴きながらお茶を楽しんでいたです。

最初の年は表千家周栄会と裏千家淡交会徳山支所が周南市文化会館3階の展示室と和室で、2回目

の昨年から交代制で担当、昨年は裏千家淡交会徳山支所がお世話されました。気軽に茶に親しんでもらおうと会場は3階展示室でのテーブルとイスの立礼式。

今年も表千家周栄会が担当。邦楽の調べにのせてお茶を点てて250人の方々をおもてなしされました。参加者は主菓子と一服のお茶を味わいながら夏のひとときを満喫しました。



表千家のお点前でお茶を楽しむ藤園忌茶会



茶会の雰囲気盛り上げる邦楽演奏



第三回「藤園忌俳句」

入賞作品決まる

児玉源太郎顕彰会は7月24日の「藤園忌」にちなんだ俳句を7月から9月にかけて募集しました。俳句は雑詠で、これまでの「児玉源太郎に関すること」に加えて季節を詠んだ当季雑詠。1人3句まで。126人から347句が寄せられました。無記名清記のうえ、

選者の宇多喜代子さん（「草樹」代表）、坪内稔典さん（「船団」代表）、久行保徳さん（「草炎」主宰）に依頼し、特選3点、入選10点、佳作17点の計30作品を決定しました。

「藤園」は児玉源太郎が書などに晩年使っていた雅号です。器量の大きな政治家、軍人として日本の近代化を推進した明治の偉人、児玉源太郎。ふるさとにおいては私財を投じて私設図書館

たり教育の向上に大きく貢献しました。現在の周南市立中央図書館の前身とも言えます。大正11年創建された児玉神社や台湾から移植された記念樹「タイワンゴヨウ」の松、菩提寺の興元寺、生家跡の産湯の井戸、3年前に整備された生誕の地など、市内には児玉源太郎をしのぶ史跡があります。入賞作品は次の通りです。

特選

鯛雲大きく流れ藤園忌

周南市 赤坂 満子

「児玉文庫」を作りました。文庫は明治36年から戦災で焼失する昭和20年まで42年間にわ

大将の口髭なぞる晩夏かな
下松市 矢野萬里子
擦れ違う人に髭ある藤園忌
山口市 山縣 愁平

入選

木綿着て木綿のような日向ぼこ
周南市 岡村たまえ
大将の菩提寺芽ぶく大銀杏
周南市 山根 瀧子

子供らの声夕焼けて児玉像
周南市 津森 敏伸
子ら集う夏の図書館藤園忌
下松市 藤井 邦子

桐一葉ころろ決めたる高さより
周南市 木村たけま
緑陰や十三歳の歴史好き
周南市 岡田 郁子

うろこ雲移動図書館やってくる
防府市 尾辻のぶほ
ふるさとに「児玉文庫」や天高し
周南市 林 しずか

元帥の右手にハット大夕焼
周南市 中坪 光江
孫と読む源太郎伝夏休み
周南市 山本礼以子

園児らは児玉公園運動会
周南市 松村 千昭
扁額の薄墨美しき藤園忌
下松市 藤井八重子

佳作

元帥のブロンズ像に蜻蛉とまる
周南市 小松十六夜
児玉文庫跡やでむし角を出す
光市 奥 みずき

反戦の少女の詩や藤園忌
周南市 山根 志づ
反骨の気概ますます青葡萄
周南市 木村しづを

藤園忌子供食堂に燈ともる
宇部市 河村千代子
鞆を漕ぐ子見つめる児玉像
周南市 谷村 道子

児玉公園日焼の子らに未来あれ
光市 藤井 安廣
子等の声湧きてたちまち蝉時雨
下松市 三野 公子

虹立つや戦火に文庫失うも
周南市 伊藤恵美子
児玉神社に空蟬持ちて参拝す
周南市 河本 宏子

赤い羽根つけて長男源太郎
山陽小野田市
青鳶の入り口までも農具小屋
周南市 森口 育美

春はあけぼの雲は坂の上
柳井市 片山 淳子
藤園忌明治の父の癖の文字
周防大島町

産湯の井抜けてやんまの風となり
平生町 松村 央美

村田 光子

「第3回藤園忌俳句」講評

源太郎への思い

選者 久行保徳

長すぎて僕の体に秋の風

児玉源太郎が長男に書き与えたもので、唯一の俳句と思われれます。

古来より、この秋風に淋しさを託して詠むことも多く、取分け晩秋の蕭条たる様は心理的にも人々の心をしみじみとさせます。

掲句への源太郎の心情は、如何にあったのでしょうか。

さて、この「藤園忌俳句」も今年で三回目となり、今回から新たに募集要項に「当季雑詠」が加えられました。これは広く定着させるもので、応募作品にも幅が出てきたように感じられます。

源太郎誕生の際、使われた井戸の残っている児玉家屋敷（後に児玉文庫）跡は、生誕の地として整備され、そこに藤園忌俳句の特選作品が掲示され、郷土の偉人に触れる憩いの場所となっています。

藤園忌うぶ湯の井戸の錆重し

村木 澄江

祭神は児玉大将小鳥来る

門田 柚木

産土の井覗く日よ児玉の忌

山根 志づ

藤園の詩書一幅や夏座敷

熊本 芳郎

とんぼうのあれは大将源太郎

石川 芳己

藤園忌文庫に落書きしたことも

伊藤恵美子

これらの諸作には、黄泉の国の源太郎への強い思いが濃厚且つ自由に書かれています。

さて、今回の特選三句。

鰯雲大きく流れ藤園忌

周南市 赤坂 満子

大空を流れる鰯雲を眺めていた

ら、杭の様に存在する源太郎の事が思い出されて来ました。

大将の口髭なぞる晩夏かな

下松市 矢野萬里子

児玉像の口髭を日輪がなぞって

いると、大きく捉えています。

擦れ違う人に髭ある藤園忌

山口市 山縣 愁平

見覚えの髭の人とすれ違い、正しく源太郎の髭と意識した、瑞々

しい感覚を見せています。その他入選、佳作にも雑詠を含めて力作ぞろいでした。

是非次回は、児玉家と関わりの深い宇多喜代子先生のお話を伺いたいと思います。

「第3回藤園忌俳句」表彰式と

選者の久行保徳さん講演

表彰式と選者の久行保徳さんをお招きしての記念講演会は10月19日、周南市文化会館3階展示室で開催、60人が出席しました。

表彰式と選者の久行保徳さんをお招きしての記念講演会は10月19日、周南市文化会館3階展示室で開催、60人が出席しました。

状と記念品が手渡されました。

このあと、選者の久行さんが「源太郎への思い」と題して講演。

まず、源太郎が詠んでただ一つ残されている俳句「長すぎて僕の体に秋の風」を紹介。松尾芭蕉や与謝蕪村、小林一茶をはじめ、杉田久女から高浜虚子、中村草田男、正岡子規、種田山頭火、夏目漱石まで1月から12月まで著名人の忌日と俳句を解説されました。「藤園忌俳句」の第1回と第2回の特選3句に触れて今回の入賞作品を一句ずつ講評、俳句の床しさと奥深さを味わいました。

特選3句は、周南市岐山通三丁目の児玉源太郎生誕の地の告知板に2年間掲示します。

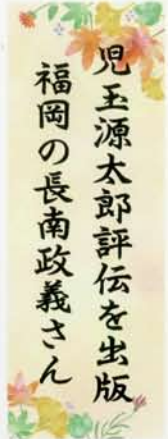


山下武右会長から賞状を受け取る受賞者

最初に主催者を代表して山下武右会長が、児玉源太郎顕彰会設立の経緯、7月24日の児玉源太郎命日にちなんだ「藤園忌」行事の意図などについて紹介。続いて、入賞作品を一句ずつ披露しながら山下会長から特選の3人に賞状と賞金、入選の10人、佳作の17人に賞



記念講演をする選者の久行保徳さん



福岡県在住の戦史研究者、長南政義さんが、周南市出身で軍人、政治家の児玉源太郎（1852～1906年）の評伝「児玉源太郎」（作品社）を今年6月に出版しました。

出生から死まで児玉源太郎の生涯を克明に描いた大作。300点を超す参考文献を基に、東京の国会図書館、憲政史料館、防衛省防衛研究所、岩手県の後藤新平記念



館など各地に足を運んで史料を収集、近年公開された児玉源太郎関係文書を生かした新事実なども盛り込んでいます。

長南さんは国学院大卒。防衛省防衛研究所研究会講師、防衛大外部講師としてこれまで講義や講演

訃報
赤尾嘉文副会長ご逝去

児玉源太郎顕彰会設立以来、副会長を務めていた山口放送相談役の赤尾嘉文さんが5月25日逝去されました。享年92。心からご冥福をお祈りします。

赤尾さんは光市から電車で旧制徳山中学校へ通いました。今年1月16日逝去された元徳山市長の顕彰会会長、小川亮さんの後輩にあたります。早稲田大学第一文学部を卒業後、しばらく徳山市の中学校で英語教師をしたあと、昭和31

年ラジオ山口（現在の山口放送）に入社、社の発展に尽力されました。社長を19年、会長を12年、昨年6月相談役へ。放送業界への貢献は大で、旭日小綬章を受章されています。

会長在任中の平成28年6月9日児玉源太郎顕彰会設立とともに副会長に就任、設立発起人5人のうちの1人として顕彰会の運営に尽くされました。8月5日、周南市のホテルサンルート徳山で催された「お別れの会」には約700人が出席、温厚な人柄がにじみ出る遺影の前に献花して、感謝を捧げながら別れを惜しみました。



をしています。東京で生活していましたが福岡県に移住、約2年をかけて評伝を書き上げました。戦史研究家だけに日露戦争の戦略など詳細に記述、洞察力と決断力、調整力に優れた児玉の人間的魅力も余すところなく伝えていきます。

まだ42歳と若い長南さんは「明治時代で最も魅力的な軍人、政治家で、改革者でもあった名将の実像を知ってほしい」と話しています。

A5判427頁。3400円（税別）。大手書店を中心に販売しています。

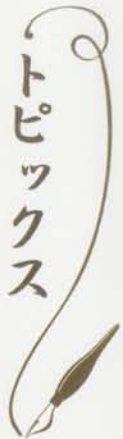
事務局より

第2回台湾の旅 来年3月上旬実施へ

児玉源太郎の足跡をたどる台湾の旅。会員からの強い要望があつて今年2月15日から3日間、初めての台湾の旅を実施しました。第4代総督児玉源太郎と民政長官後藤新平が活躍した舞台の中心地、台北市に絞って企画、総統府や台北賓館、国立台湾博物館などに焦点をあてました。

第2回は来年3月6日から3日間、台北、台中、台南、高雄のゆかりの地を訪ねます。台北の児玉源太郎遺髪塔が残る臨濟護国禪寺、国立台湾博物館、台湾の小京都と言われる台中では台中公園や旧台中州庁、旧台中市役所、台南の林百貨店、国立成功大学、高雄の台湾糖業博物館など。その地の郷土料理にも舌鼓を打ちます。福岡空港発着、台湾では新幹線と専用車で移動します。

詳細は12月中に児玉源太郎顕彰会会員へ案内文書をお届けします。積極的なご参加をお待ちしています。



児玉神社境内に告知板

児玉源太郎顕彰会は5月23日、周南市児玉町の児玉神社に顕彰会の活動などを知らせる告知板を設置しました。設置費用は約60万円で半額の寄付を周南西ロータリークラブから受けました。顕彰会の山下武右理事(現会長)と周南西ロータリークラブの吉原雅会長から黒神直大宮司に奉納されました。アルミ製の告知板は縦90センチ、横150センチ、高さ190センチ。マグネットで張り付ける形式で、顕彰会の会報「藤園」やニュースレター



「本丁通信」、神社の行事予定などを掲示します。

告知板の設置は岐山通の「児玉源太郎生誕の地」に次いで2か所目。

歴史を未来につなぐ

シンポジウム

台湾と山口とのつながり

台湾と山口とのつながりを過去、現在、未来の視点で論じる「歴史を未来につなぐシンポジウム」が11月24日(日)午後4時から6時まで周南市立徳山駅前図書館3階交流室2で開催されます。

同図書館とオフィス・Smaller Town Talkの主催。パネリストは、過去の「台湾と周南との歴史検証」を西崎博史(児玉源太郎顕彰会事務局長)、現在の「台湾の今を多様な視点から分析」を福屋利信(山口学芸大学教授・台湾開南大学客員教授)の各氏、未来の「台湾と山口との未来像を提案」を山口大学国際総合科学部の学生3人が語ります。学生は課題解決型学習として台湾における美祢市プロジェクトへ参加しています。

定員80人。入場無料。整理券を同図書館3階受付カウンターで配布中。お問合せは同図書館(☎0834・34・0834)

編集室より

志半ばで倒れた

藩士たちのその後

川上 浩史

児玉源太郎は献功隊の一員として箱館で戦い、その後軍人の道を歩み始めました。徳山藩は明治2年に領内の東西に招魂場を設け、戦没者等を山崎隊は永源山に、献功隊などは奥迫梅地山に祀りました。廃藩後は永源山に統合され現在に至ります。

一方、国は靖国神社で戊辰戦争の戦死者と幕末の殉難者を祀ることとしていましたが、「殉難者」の定義で混乱が生じたため、児玉次郎彦らの合祀は明治21年に行われました。同年、徳山七士碑を建立することに繋がりますが、地元での祭祀との関係について、少し調べてみるところです。

(新南陽郷土史会事務局長)

美術博物館もろもろ

松本久美子

周南市美術博物館では昨年度、児玉源太郎の書が新たな収蔵品となり、今年9月に常設展示の「新収蔵品展」でお披露目しました。中国・唐の文学者である元結の詩文集「元次山集」から引用した言葉が書かれています。

もともと当館が所蔵する源太郎の書は少なかつたのですが、近年少しずつ集まってきています。これも周南が源

太郎のふるさとということが定着していつているからかもしれません。今年の夏には、ある博物館から来年の展覧会に向けての事前調査の依頼があり、学芸員の方が源太郎に関する資料をいくつか調査されました。美術館、博物館の資料は、そこで展示するだけでなく、他館などに貸し出して展示されることもあり。そこで、また児玉源太郎に興味を持たれる方もあることを期待しつつ。詳細が決まったらお知らせしたいと思います。

(周南市美術博物館学芸課長)

一年を振り返って

片山 園江

私は、昨年10月から事務局の仕事させていただいています。12月の「明治維新百五十年の宴」をはじめ、今年5月の総会と記念講演、7月の「藤園忌」茶会、命日祭と墓前供養、10月の「藤園忌」俳句表彰式と記念講演と、勉強することはばかりで、皆様に支えられた1年でした。

徳山大学の紙矢健治教授が10月5日、同大学市民講座で「児玉源太郎と台湾」と題して講演、興味深く拝聴しました。顕彰会では来年3月に第2回台湾の旅を計画しています。紙矢先生から戴いた冊子を鞆に入れて、児玉源太郎の台湾での足跡を改めて学びたいと思います。一人でも多くの会員の皆様と参加できますことを楽しみにしています。(児玉源太郎顕彰会事務局)